

同志社大学社会福祉教育・研究支援センター  
教育・研究プロジェクト申請

1. 申請者（代表者）氏名

木原活信

2. プロジェクト・テーマ

産業メンタルヘルスにおける自殺予防ーソーシャル・ワーカーとしての視点からー

3. 共同研究者氏名と所属（嘱託研究員候補者には\*印を付してください）

市瀬晶子（同志社大学大学院博士後期課程）

倉持史朗（本学教員）

引土絵未（同志社大学大学院博士後期課程）

\*田邊蘭（保健同人社 臨床ソーシャルワーカー）

山村りつ（同志社大学大学院博士後期課程）

4. 教育・研究の目的と計画概要

- ・産業メンタルヘルス領域における自殺予防の取り組みについての研究。
- ・自殺予防の実践として、ソーシャル・ワーカーとして産業システムにどうアプローチしていくか。
- ・インターベンション段階における具体的なモデル構築を目指す。

近年の自殺者の増加について、特に産業分野に限って調査研究を行う。1990年代以降、社会問題化している過労自殺に始まり、最近の職場におけるうつ病の問題等を中心に、産業分野における自殺問題に焦点をあてる。その際、職場環境における主に人間関係における変化や、日本独特の「仕事」への意識や産業システムについて触れ、その中から、ソーシャル・ワーカーとして自殺予防に取り組む意義と可能性を示すことを目的とする。加えて、ある一定の段階での介入方法についての新しいモデル構築を目指すものである。

5. 年次別教育・研究実施計画

2年を以下の5期に分けて研究調査をすすめる

- 1) 自殺の概念整理、統計学的、社会学的視座を含め、日本における自殺の現状の把握
- 2) 自殺対策としての諸種の検討（国家対策としての法律の整理、キーとなる概念の整理）
- 3) 自殺対策としての国内の産業分野の検討（国際的な比較も多少含む）

- 4) 産業分野ソーシャルワーク実践の検討のための事例調査、およびフィールド調査
- 5) 分析、考察結果を文章化・発表

#### **6. 研究上の予想される貢献と成果**

- ・産業メンタルヘルス領域における自殺予防の取り組みの実態の把握。
- ・自殺予防の実践として、ソーシャル・ワーカーとして産業システムにどうアプローチしていくかの具体的な提言。
- ・自殺予防のインターベンション段階における具体的なモデル構築の検討。

#### **7. 教育上の予想される貢献と成果**

共同研究者は、すべて大学院修士課程修了者であり、また多くはソーシャルワーカー、臨床家としての実践、臨床経験をもっている。このような者たちが、自殺予防という具体的な同一のフィールドを研究することを通して、自らのこれまで培ってきた実践経験を言語化するための訓練とアカデミックなトレーニングの効果が期待される。

#### **8. その他特記事項（あれば記入してください）**